

九州運輸局メールマガジン
平成22年3月4日 第72号（発行日：毎週木曜日）
～九州の明日を拓く運輸と観光～
九州運輸局HPアドレス <http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

九州運輸局メールマガジンをご覧ください。

目次

- 1.九州運輸局ホームページアップ情報（2月25日～3月3日掲載分）
プレス発表
入札・契約情報
九州統計情報（自動車登録・整備関連）
九州のうんゆ
支局・事務所
九州グリーン物流パートナーシップ推進協議会
組織別情報（海事振興部船員労政課）
- 2.現場レポート
福岡市立片江小学校の「海事施設見学会」と「海事関係業務周知広報事業」
- 3.九州運輸局セミナー
内航海運のこと、知ってますか??
- 3.リレーコラム【下関海事事務所長 篠田 正昭】
- 4.編集長だより

【九州運輸局ホームページアップ情報】（2月25日～3月3日掲載分）

プレス発表

《総合》

- ・平成22年度「国土交通行政インターネットモニター」を募集します（2月26日発表）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100226_1.pdf

《観光》

- ・外国人による「ひとり歩き点検隊」の実施について
～太宰府地区で実施します～（2月26日発表）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100226_2.pdf

- ・テーマパークアイランド九州「スプリングキャンペーン」開催（3月3日発表）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100303_1.pdf

- ・平成22年度地域公共交通活性化・再生総合事業の公募開始（3月3日発表）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100303_2.pdf

- ・「観光立国の実現に向けた九州官民協議会」を開催（3月3日発表）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100303_3.pdf

《自動車》

- ・自動車検査証の誤交付について（2月26日発表）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100226_3.pdf

- ・福岡エムケイ株式会社から申請のあった運賃等の認可申請に対する却下処分について（3月1日）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100301.pdf>

入札・契約情報

- ・企画競争実施予定情報

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou_100225.pdf

- ・企画競争実施公示

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list2.html#KIKAKU_KOUJI

・物品役務入札公示

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list.html#BUPPIN_CHOTATSU

海運・船

・船員派遣事業の申請処分状況

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/senin/2202.pdf

九州統計情報（自動車登録・整備関連）

・九州管内自動車数統計（平成21年度版）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/toukei/j_touroku/file04.htm

・自動車保有車両数（平成22年1月末現在）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/toukei/j_touroku/syaryousuu22_1.pdf

・新規登録自動車数（平成22年1月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/toukei/j_touroku/shinkitouroku22_1.pdf

・燃料別等自動車保有台数（平成22年1月末現在）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/toukei/j_touroku/nenryoubetsu22_1.pdf

九州のうんゆ

・2009年11月

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kyushuunyu/pdf/21_11.pdf

支局・事務所

・大分運輸支局（庁舎統合に伴い統合版に修正）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/sikyoku/file12b.htm>

九州グリーン物流パートナーシップ推進協議会

・メールマガジン38号

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kyusyu_green/mail/pdf/mail_magazine/No_38.pdf

組織別情報（海事振興部船員労政課）

・船員の最低賃金（大型いか釣り漁業の変更）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kaiji/file05_02.htm

【現場レポート】

福岡市立片江小学校の「海事施設見学会」と「海事関係業務周知広報事業」

2月26日、片江小学校4年生の社会科学習『国内外と人やモノでつながる福岡市』のお手伝いとして、交通環境部、海事振興部、海上安全環境部が連携して、見学会と出前講座に取り組みました。

午前中はシトシト降る雨の中、まずベイサイドミュージアムスタッフによる博多港の役割を説明し、クラス別に港を一望できるポートタワーに登り、生徒達は眼前に広がる景色に感激していました。

次は、ポートガイドが車窓から見える埠頭の役割を説明しながらバス移動、香椎パークポート屋上からコンテナターミナルを見学しました。ここでも生憎の雨模様にもかかわらず、生徒達は熱心に説明に聞き入っていました。

お昼は、博多港振興協会の計らいで、センタービル会議室を借り切って、にぎやかで楽しいお弁当タイムを過ごしました。

午後は、乗船経験を持つ海技試験官により、日本の物流に関わる「船と船員の役割」を小学生向けに解りやすく説明しました。「しつもんタイム」では、生徒からの質問が続出し予定時間をオーバー、次の倉庫施設見学へ急ぎました。

1組は三井倉庫九州を見学、自動化倉庫では、ボタン操作一つで荷物が運ばれ

てくるスピードの早さに驚きの声が上がリ、低温倉庫では、コーヒー豆の保管作業に「家に帰ったらお母さんに話してあげよう」との声が聞かれました。

2組は西九大運輸倉庫を見学、ここは福岡の老舗デパート「岩田屋」の商品発送が主業で、普段の生活との関わりを身近に感じられ、高架リフター作業では感動して拍手が湧いていました。

3組は山九を見学、注意事項の中で「作業を行っている人に会ったら『ご安全に！』と声を掛けましょう」との話があり、倉庫内で会う人ごとに大きな声で『ご安全に！』と連発し、スタッフの笑いを誘っていました。

今回の見学会は社会科学習の一環であり、生徒の意欲・意気込みが強く感じられ、次々と繰り出す質問に説明者がタジタジとなる場面も多くなりました。

出前講座では、先生を含め生徒達へ、「船や船員」に興味を増して頂けたと思います。しかし、時間の都合で質問を打ち切りましたので、次回からは質問時間を多く設け、的確に回答できるようにしたいと思います。

最後に、「この学校から1人でも海事産業に就職してくれたら・・・」と切に願う次第です。

当日の様子は次のURLからご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_72.pdf

(交通環境部物流課、海事振興部貨物課・船舶産業課、海上安全環境部監理課)

【九州運輸局セミナー】

内航海運のこと、知ってますか??

《内航海運とは・・・??編》

一口で言うと、船で国内の港から港へ貨物を運ぶのが内航海運です。その船を内航船と呼んでいます。日本は島国なので、昔から「北前船」など、船による物資輸送が盛んに行われ、今日では約6,000隻余りの内航船が港と港を結んで昼夜を問わず安全に貨物の輸送を行っています。

今日の国内貨物の主な輸送機関は、内航海運の他にトラック・鉄道等がありますが、内航海運は、国内貨物の約4割を担っており、産業基礎資材から生活必需品に至るまで様々な貨物を運び、産業と暮らしを支える大動脈です。

特に九州においては、内航海運の事業者数は全国の2割を占め「船どころ」と言われており、内航海運が盛んなところでは、皆さん方のご家庭にも、内航海運によって運ばれたものが、いくつかはあるのではないかと思います。

《法律編》

法律上は内航海運業法と称され、「船舶による物品の運送であって、船積港及び陸揚港のいずれもが本邦内にあること」となっており、一般貨物船やタンカー、各種専用船などによって、鋼材・セメント・石油・コンテナ・食料品・雑貨などの貨物を国内の各港間を輸送することです。

外航船(国際貿易貨物を船舶によって海外まで運ぶ海上輸送)による輸送は内航海運業には該当せず、また、長距離フェリー等は物流機能としては大きいものの法律的には、旅客船による輸送として整理されるため、国内海上輸送であっても内航海運業には該当しません。

《環境編》

近年では、道路の混雑や騒音、地球温暖化といった環境問題により、渋滞もなく、地球に優しい輸送モードである内航海運が注目されています。そんな中で、

なんと、車と同じく電気推進で走る船舶もあるんですよ。一般的にはSES（スーパーエコシップ）と呼ばれ現在十数隻運航しており、国土交通省ではSESの建造を支援しています。

【おまけ】

皆さんも港へ出かけてみませんか！！入出港する船や荷役中の船などを見ることができます。内航船にはいろいろな種類があり、新しい発見ができるかもしれませんよ。

内航船の詳しい種類をお知りになりたい方は当課までご連絡下さい。

（海事振興部貨物課）

【リレーコラム】

山口県内には、西の京と云われ大内文化の面影が残る山口市や、萩・津和野、柳井、防府、長門仙崎など古い街並みが数多く残っている。今回、初めての下関勤務であり、休日にはJR等を利用し町歩きを楽しんでいる。特に、長府の町は下関駅からも近く、新緑・紅葉の頃には何度も足を運んでいる。

「長府」の歴史は古く、西暦193年に仲哀（ちゅうあい）天皇が、西国平定に際し、仮皇居として豊浦宮（とよらのみや：現在の忌宮（いみのみや）神社）を設けた地と伝えられており、大化の改新以降長門の国の国府が豊浦に置かれたことから、長府と呼ばれるようになったそうである。

その後、秀吉の時代に、毛利一族の毛利秀元（ひでもと）が長州藩の支藩として長府藩を起し、城下町としての歴史が始っている。

長府観光会館でMAPを入手し、壇具（だんぐ）川沿いを功山寺（こうざんじ）へ向かう。（長府の町は小路が多いので、マイカーの場合、観光会館に車を止め、ゆっくり散策を楽しむことをお勧めしたい。）

この川は、周防灘（すおうなだ）に流れる川で、神功皇后が出陣の際、ここに壇を置いて祭事を行い、使った道具類を流したという故事にちなんで「壇具川」と呼ばれているそうであるが、清らかな流れには鯉や鴨の姿を見ることができ、また、ほたるの里としても有名である。

川の流れや川沿いの木々を眺めがら、20分程で「功山寺」に辿り着く。

総門を潜り、杉の巨木がうっそうと繁る参道を登ると、目の前に二重檜造の山門が聳え立つ。山門の側に植えられた楓が色づく頃、参道からの眺めは最高で思わず足が止まる。

山門を潜ると、わが国最古の禅寺様式を残した仏殿（国宝）が静かにたたずんでいる。

ここは、1864年長州藩存亡の危機の時、高杉晋作がわずか80名を率いて挙兵した回天義挙の地であり、また、長府毛利家の菩提寺ともなっており、境内の裏手には秀元をはじめ歴代藩主の墓が祀られている。

参道を下り、左手へ進むと、「長府毛利邸」がある。明治36年に14代当主毛利元敏によって建てられ、大正8年まで長府毛利家の邸宅として使用された。明治天皇の行在所（あんざいしょ）としても使用されたところで、現在は、一般公開されている。

武家屋敷造の母屋の各所には、季節の草花が活けられ、訪問する度に目を楽しませてくれる。また、白壁に囲まれた回遊式の日本庭園は見事で、庭に出て散

策するもよし、じっくり腰を下ろし抹茶をいただきながら樹木を愛でるのもまた一考である。

菅家（かんげ）長屋門などが残る古江小路（ふるえしょうじ）あたりは、練り堀の家並みが続き最も城下町らしい雰囲気が残っており、土堀からのぞく草花を眺めながらゆっくり散策すると、何かしら身の落ち着きを感じる処である。

下関駅から、レトロ建築が残る唐戸、壇ノ浦古戦場を望む御裳（みもすそ）川を經由、長府間には土・日・祝日限定でロンドン交通局から送られた二階建てロンドンバス(外国の自治体に送られた6台のうちの1台)が運行している。2階席からは、いつもと違った目線で関門海峡の景観を楽しむ事が出来るので、機会があれば是非乗車をお薦めする。

（下関海事事務所長 篠田 正昭）

【編集長だより】

春を告げるシロウオ漁が最盛期を迎えています。早春の訪れを告げるシロウオ漁が福岡市の室見川で2月中旬から始まっています。捕ったシロウオは「シロウオの踊り食い」として生きたまま酢醤油につけて、噛まずにそのまま飲み込みます。味は淡泊でのごしを楽しむものです。少々残酷な気もしますが・・・。

魚の話のついでに有明海の魚達を紹介したいと思います。有明海は珍魚の宝庫といわれ「ムツゴロウ」をはじめ「くつぞこ」「ワラスボ」「メカジャ」「わけのしんのす」など聞いたこともない魚介類がたくさんいます。その中でも特に有名なのが「ムツゴロウ」なのではないでしょうか。「ムツゴロウ」は有明海と八代海のごく一部で生息する愛嬌のある魚です。水ぬるむこの時期に泥の中からいっせいに這い出て動き出します。その他の魚介類も見た目がグロテスクでとても食べる気が起こらないものばかりですが、柳川市の沖端に数軒並ぶ魚屋さんの店頭にずらっとならんでいます。「さげもん祭り」のついでに見るだけでも話のネタになるのでは。

なぜ、有明海には変わった魚介類が多いのか。干満の差が日本一ということは知られていますが、その他に干潟の泥の粒が他の干潟に比べて極端に小さいことが原因とのこと。この泥は前号で書きました、阿蘇山の大噴火のときに降り積もった火山灰が原料になっています。これらの偶然と有明海という閉鎖的な環境が、珍魚達を作りはぐくんできました。しかし、近年の環境の悪化により生息数が徐々に減っているそうです。グロテスクで愛嬌ある魚達を後世まで残したいものです。

皆様のお知りになりたい情報・ご意見・ご要望等をお聞かせください。
編集部ではできる限りご要望にお応えしたいと思います。
下記のメール又はファックスからお気軽にお寄せください。

九州運輸局メールマガジン編集長（九州運輸局総務部広報対策官）

森 益隆（もり ますたか）

mail : mm-kyushu@gst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

バックナンバーは、次の URL に掲載しています。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html